

新潟を離れて

高木 英一*

この度、「新潟を離れて」と題して寄稿依頼があった。新潟は私が社会人としての一步を踏み出し、10年間を過ごしてきた場所である。「新潟を離れて」、まだ2ヶ月余りであり、新しい場所や生活にもやっと慣れてきたところで、新潟で生活していた感覚もまだまだ残っている。そんな中で、思っていることを書いていきたい。まとまりの無い文章ではあるが、ご容赦願いたい。

新潟での生活

私は平成8年4月、入社とともに新潟に赴任してきた。それまでは内陸の盆地での生活だったこともあり、日の長いことに驚いたことを今も覚えている。新潟で生活を始めて最初の1年の実感は「気候の違い」に集約され、とりわけ「なんて、天気の悪いところなんだ!」という思いでいっぱいだった。しかし、その思いも新潟での生活が長くなると薄れ（無くなることはなかった）、いろいろな意味で住み心地の良い町だったな、と感じていたし、実際に新潟を離れてみるとその良さを改めて感じている。

転勤して

今年4月、初めての転勤で本社勤務となり、埼玉県に越してきた。まだ2ヶ月あまりであり、毎日の通勤以外になかなか出かける機会もないのが、現状である。私の住まいは桶川市なのだが、町の規模は7万人強であり、町もさほど大きくない。生活をしていても新潟にいるときよりも不便さを感じることが多い。都心に出るのにも電車で小一時間かかるため、なかなか行く機会はない。出かけるときは目的に応じてではあるが、自動車が便利な場合が多いのだが、道は全体に混んでいて、結局移動に時間がかかる。その辺の用足しも微妙に不便で、つい先日も郵便局の窓口が日曜でもやっていると思ったらATMしかあいていなかった、なんてこともあった。そう考えると、新潟は適度に開けていて、適度に広く、物価もさほど高くない。生活するには便利な町だったのだな、と思っている。

中山道

現在住んでいるマンションのすぐ脇に中山道が通っている。私の実家（長野県岡谷市）も中山道のすぐ近くであり、現在の会社（さいたま市）も中山道に面している。もっと探すと、私の家内は以前東京都板橋区の中山道の脇に住んでいたことがあり、今回の転勤・引越しを機に中山道と自分の縁を感じている。今度、実家に帰る際は中山道を辿る工程を選んで帰ろうかな、と思っている。

*三菱マテリアル資源開発㈱

新潟応用地質研究会との係わり

私の新潟応用地質研究会との係わりは、入社した年からである。最初は見学会に上司に連れられ参加したのがきっかけで、その後、例会や見学会に何度か参加し、正式な会員になったのは入社してから数年たってからだったと思う。会員になってからも時間のあるときに例会や見学会に参加させていただいていたが、ただ参加しているだけであり、他の会員の方との交流はほとんど無かった。平成14年に幹事を務めることになり、他の幹事を始めとした会員の皆様との交流が始まった。経験豊かな諸先輩方の中で、非常にお世話になり、いろいろと勉強させていただいた。幹事をしていた4年間は今考えるとあっという間だった気がしている。

現在の仕事

現在、私は鉾山環境部という部署に所属している。主に旧廃止鉾山の維持管理のための調査・工事を担当している部署なのだが、これまで担当してきた内容と係わりのある業務とまったく違う業務とがあり、現在勉強をしながら、業務をこなしている。今は10年間同じ部署で勤務し、堅く固くなりはじめていた頭を少しずつ柔らかくなるように考えている。そんな毎日である。

これからもよろしくおねがいします

私はもともと新潟の人間ではないので、これからまた新潟に戻る可能性があるかどうかはわかりません。しかし新潟応用地質研究会は、自分にとっていろんな意味で応用地質研究会は非常に勉強になる場であり、色んな方と交流できる場所だった。改めて、新潟応用地質研究会に参加させていただいたことに感謝し、これからも機会を見つけてお世話になればと思います。

これからもよろしくお願ひします。